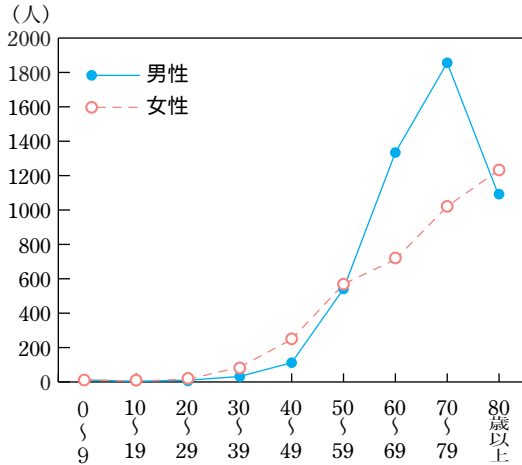
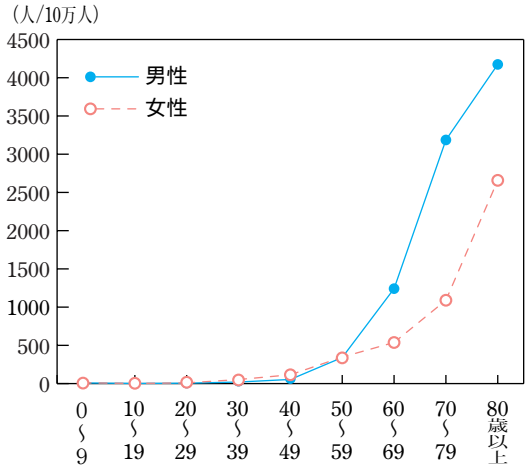


年齢階級別罹患数

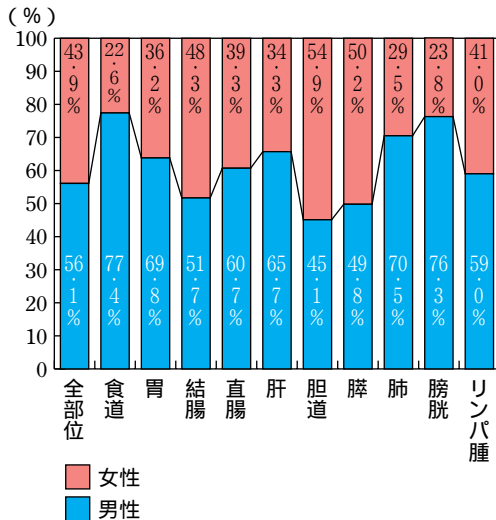


年齢階級別罹患率 (人口10万対)

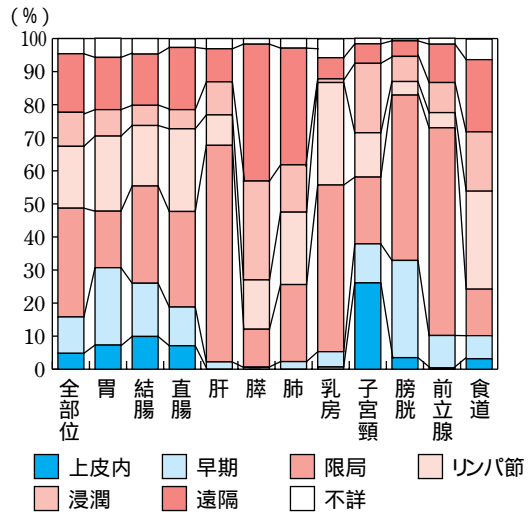


年齢階級別罹患数・罹患率ともに、20～49歳の年齢層では女性、それより高齢層では男性の方が高かった。これは、女性の乳がんや子宮がんが若年層に多いためと考えられる。

がん罹患の主要部位別男女比



主要部位別病巣のひろがりの状況



全般にがんは男性に多い(全部位で56%)、なかでも男性に多いのは、食道がん、膀胱がん、肺がん、胃がん、肝がんである。喫煙飲酒などの男性に特有の生活習慣を反映していると考えられている。

早期に(上皮内、早期)発見されている割合の多いがんは、子宮頸がん(38%)、膀胱がん(33%)、胃がん(31%)、結腸(26%)などであり、進行して(隣接浸潤、遠隔転移)発見されている割合の多いがんは、膵がん(71%)、肺がん(50%)などであった。なお、進展度の定義(特に早期)が臓器によって本質的に異なることに留意する必要がある。